

離宮八幡宮は山崎往還の中にあり。鳥居の額は行成卿の筆なり。神殿には八幡宮を崇奉りて、社壇の下には石清水涌出す。「左右に隨身の像あり、形相奇異にして他に比類なし」若宮のやしろ武内臣は本社の傍にあり。後の山を神降山といふ。当社は貞觀元年四月十五日、行教和尚宇佐の宮に詣で、八月廿三日帰洛し山崎に至る時に。村老出て和尚に對し、去る七月十五日夜此地に神降給ひぬ、其瑞日輪の如し、又橋樹の木陰より清水わき出て異香薫ず。行教これを天聽に達し、勅を奉て清水を神体とし、神殿を造營し給ふなり。「離宮の名は当社鎮座のまへよりありて、弘仁帝の御狩の時夜泊し給ふ、山崎の離宮これなり。此宮室に勸請し給ふゆゑに離宮八幡と称す」